白いファンタジー！　漁船クルーズで万葉の海を満喫！！

—白崎クルーズ—

紀州日高漁業協同組合
白崎クルーズ　川 口 健 男

1．地域の概要

私たちの住んでいる由良町は、和歌山県のほぼ中央に位置し、東西 10.9km、南北 6.6km、面積 30.74 ㎢の海と山に囲まれた風光明美な町である。紀伊水道に面した海岸線からは遠く四国が望め、まるでエーゲ海を思わせるような真っ白い岬が突出し、石灰岩の奇岩が点在する白崎海岸を有している。また、一帯は県立自然公園に指定され、海上より眺めるその美観は古く万葉集にも「白崎は幸くあり待て大船に　真かじ繁貫き　またかえり見む」と詠まれている。

2．漁業の概要

私たちの所属する紀州日高漁業協同組合は、平成 19 年 4 月に日高地域の 8 つの漁協が合併して誕生した漁協である。旧来の漁協は支所となり、私たちの所属していた大引漁協は大引支所となった。大引支所の正組合員は 46 名、準組合員は 130 名であり、組合員は一本つりやはえ縄、定置網、刺網などに従事している。支所の年間水揚量は約 60t、水揚金額では 4,600 万円であり、主な漁獲物はシラス、アジ、サバである。

3．グループの組織と運営

大引支所に所属する組合員 6 名で白崎クルーズというグループを結成し、代表を 1 名置いている。予約やチケット販売等の窓口は、同じ地区にある白崎海洋公園内のレストラン「白い岬」にお願いしている。乗客の受け入れ方法は予約制を基本としており、メンバーの 6 隻の漁船のうち、出漁予定の無い船が予約に応じて対応することにしている。メンバーはそれぞれ一本つりや定置網、はえ縄、刺網などいろいろな漁業種類を営んでおり、忙しい時期が一致することは希である。従って、常時誰かが対応可能な状態にあり、今のところスムーズに対応できている。もちろん、団体のお客さんが来られた時は、漁を休んで全員で対応することもあり、予約の無い飛び込みのお客さんについては、空いている船で対応するようにしている。メンバーの漁業種類がバラバラだからこそ、柔軟に対応できるこうした受け入れ体制が、私たちの大きな利点であると考えている。

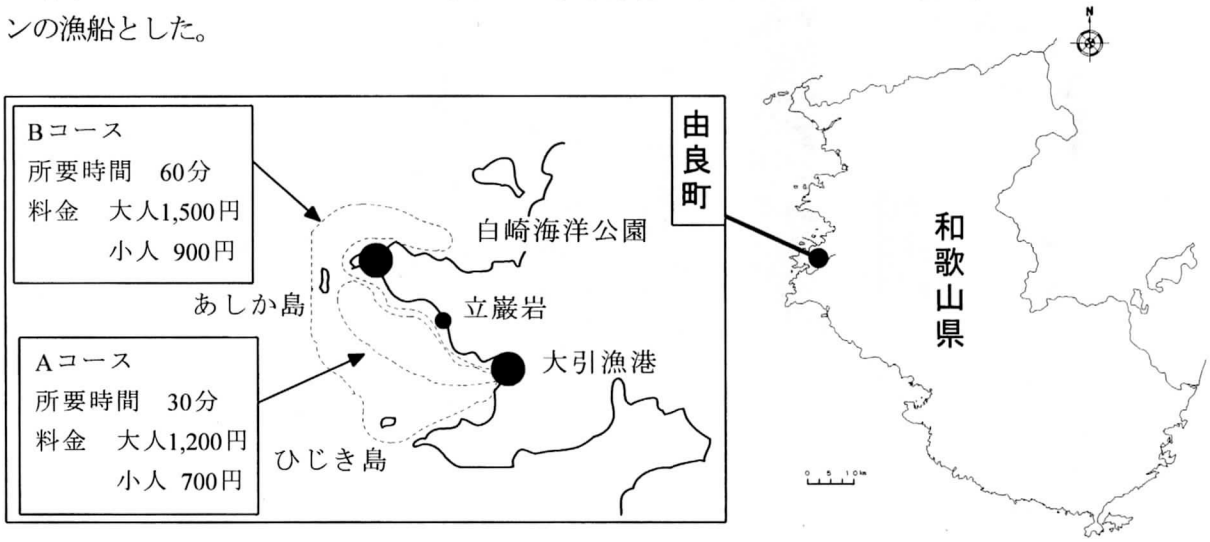
4．活動の動機

私たちの漁協、支所においても、他の漁協同様、漁獲量の減少や魚価の低迷、組合員の高齢化などの悩みを抱えている。そのような中、昨年の 12 月頃から、こうした閉塞した状況を打破するために何かしては？という議論が持ちあがり、「白崎を漁船でクルーズしてはどうか？」との意見が出てきた。当初、私はその意見に否定的だったのが、みんなで議論するうちに「今のような状態を変えるためには何かしなければならない。」と考えるようになった。最終的に、組合で有志を募ってやってみようということになり、私を含めた 6 名の参加により白崎クルーズを結成するに至った。

5．活動状況及び成果

（1）開設への準備

クルーズを行うにあたっての最初の問題は、クルーズには許可が要るのかどうかということであった。そこで、和歌山運輸支局を訪ねて相談すると、小型船舶検査機構の検査を受けていれば12名以下の旅客定員では許可の必要は無く、届出のみで良いことがわかった。しかし、届出の書類には聞き慣れない言葉などがたくさん書かれておりとても苦労した。運輸局への届出が済めば、今度は必要な施設や物品の準備が待っていた。思いつくだけでも、宣伝用のポスターやお客さんに渡すチケット、それに安全に乗船していただくための乗船筏や救命胴衣などたくさんあった。特に筏はお金がかかるので、材料を買ったり、使い回したりして、自分たちで作ることにした。おかげで筏にかかった費用は外注するのに比べると半額以下で制作することができた。また、クルーズ中にお客さんに対して行う案内については、あくまでも自然を体験してもらうという考えの元で、メンバー一人一人が自分なりに説明することにした。航路については、幸い我々の地域には2億5千万年前にできたという石灰岩の白い岸壁が立ち並ぶ全国でも珍しい、そしてすばらしい白崎海岸がある。この白崎海岸のすばらしさを十分に楽しめるコースということで、所要時間が30分のAコースと1時間のBコースの2つのコースを設定した。使う船は、私たちがいつも漁に使っている3～4トンの漁船とした。

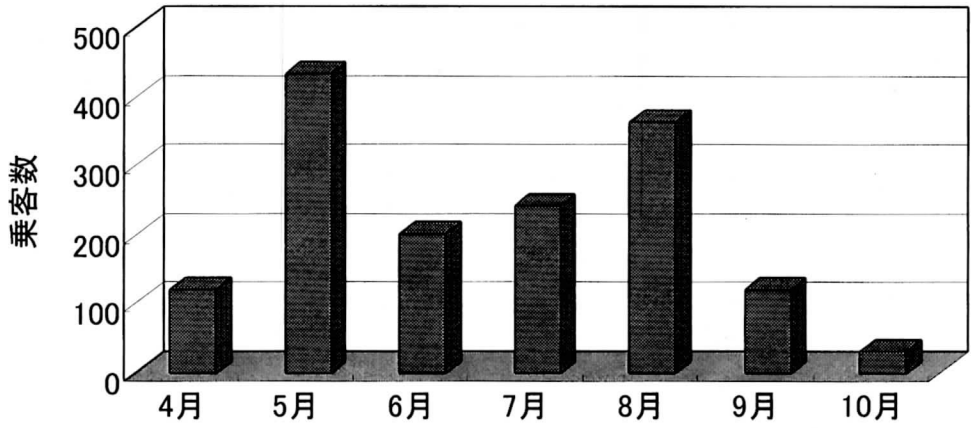


和歌山県由良町の位置とクルーズのコース

海上より白崎を望む

（2）乗船実績

乗客数は、4月に121名、5月には432名と順調に増加した。6月にいったん減少したが、7，8月になると再び増加し、10月18日までに1,508名の方に乗船していただくことができた。当初は年間で1,000名の方に乗船していただくことを目標としていたので、半年で目標の1.5倍のお客さんに来ていただけたことは非常に嬉しいことであり、今後の励みとすることができた。お客さんは、地元の方をはじめ県内各地からと様々であり、県外からは大阪などの近畿地方を中心に、東京や岡山県など遠方からのお客さまも多かった。夏休みシーズンである7月と8月の団体客を除いたお客さんの構成は、県外の方が半分以上を占めていた。また、テレビや新聞などの取材、地元の小・中学生や子供クラブ、老人クラブの方たちも乗船していただいた。さて、気になる乗客の反応だが、ありがたいことに今までお叱りを受けたことはなく、大変好評である。皆さん、船釣りをしないかぎり漁船に乗る経験がほとんどないということで、海に浮かんでいる感覚がじかに伝わる漁船の乗船体験には大変感動するとのことだ。



白崎クルーズの乗客の推移（平成20年4～10月）

（3）海の人気者

このように、当初心配していたにもかかわらず、順調に船出した白崎クルーズであるが、乗客の反応によって意外な人気者が私たちの海岸に居ることがわかった。それはウミネコである。私たちの住む大引には大ハイやひじき島という岩や島があるが、それらはウミネコの繁殖地として有名である。島では春から夏にかけて多くのウミネコが産卵し子育てをする。そのウミネコに餌をやる体験をクルーズに組み込んだところ、とても迫力があるということで大変な人気となった。最近ではウミネコ目当てにクルーズに来られるお客さんも増えている。もちろんウミネコの餌は定置網で獲れる小さなイワシや小アジなどである。しかし、秋になるとウミネコへの餌やり体験に問題が発生した。子育てを終えたウミネコがどこかへ行ってしまうのだ。どうやらウミネコが大引に居るのは子育ての前後だけのようだ。従って、ウミネコが居ないとなると予約を頂いてもキャンセルされるお客さんが増えて秋は客足が少なくなった。しかし、最近(１１月)になるとウミネコの姿を見るようになった。どうやら子育てに備えるために大引に戻ってきてくれたようだ。

漁船を訪れるウミネコ(左)と繁殖地のある大ハイ

6．今後の課題

以上のように、クルーズの立ち上げから営業の開始まで、比較的スムーズに進んだわけだが、リピーターの増加と新しいお客さんの獲得が今後営業を安定的に続けていく上で、大きな課題と考える。例えば、海の生き物に触れたり観察したりできる「海の上」ならではの体験を組み込みこむのも一つの方法だと考えている。また、子どもクラブや老人クラブなどの方に定期的に利用していただくようにすることも考えている。これについては、昨年、俳句の会の方たちが、十五夜に「お月見クルーズ」を企画することとなった。残念ながら荒天で中止となったのだが、良いアイデアだと思うので今後是非実現したいと考えている。それに漁家民泊や漁業体験などと連携したり、獲れたての魚を販売したりと地域の活動と広く連携してゆくことも必要だ。また、和歌山県下には美しい海岸がたくさんあるので、そうしたところで漁船クルーズが楽しめるようになれば、それらをつなぎ合わせて、例えば「海の街道」というような形で、県内外の人に和歌山の海の良さをＰＲしていけるのではないだろうか。

このように、現在に至るまで、思っていたより順調に進んできたが、なにぶんはじめての事を手探りの状態でやってきたので苦労もたくさんあった。しかし、営業半年で千人以上の方に乗船していただけたことは大きな前進だと思う。これからも、より一層お客さんに満足していただけるクルーズであるよう、たゆみない努力を続けて頑張っていこうと考えている。